

【識字率向上月間】 世界ローターアクトの日 (3/13)

3 月は、「識字率向上月間」です。

国際ロータリーでは、非識字撲滅を目指し飢餓をなくし貧困から人々を救う事を最重要課題と考えています。識字率向上は、1986 年以來の強調事項ですが、「識字率向上月間」は、1997 年度に始まり今日まで継続されております。

まず、識字とは、文字を読み書きし理解する能力で、英語のリテラシー (literacy) の日本語訳です。社会の 15 歳以上の人口の中で母国語の読み書き能力のある人の割合を示します。

ただし、多言語社会や移民社会では、母国語が公用語でない場合が多く、また母国語が文字を持たない言語であることも多く、現在ではユネスコが各国ごとの識字率を 10 年ごとに調査し、世界的に公表しているが、その数値は正確とは言えない。

現在、7,500 万人の子どもたちが学校へ通えず、成人の 7 億 7,600 万人の人々が読み書きができないと言われており、私たちにとって日常生活に必要な「読み・書き・計算」ができる事を「識字」と言い、逆に「読めない・書けない・計算できない」人のことを「非識字者」と呼んでおります。

それでは、なぜ読み書きができない人、非識字者が多いのでしょうか！

国によって教育予算が少なく、授業料が無料でない国が多くあり、貧困家庭の子どもたちや孤児は、学費を払えず、学用品を買うお金がなかったり、家計を助ける為に働かなくてはならないなどの理由から、学校に通うことができない傾向にあります。また、学校の教育の質が低いため「学校に通わせる意味がない」と親が考え、通わせないケースもあります。

その他、途上国では、女の子は学校へ通えたとしても学校では性的な嫌がらせを受けたり、女性用のトイレがなかったり、早すぎる結婚、女性教員が少ないなどの理由で通わなくなってしまうなどで、世界の非識字者の 3 分の 2 が女性と言われております。

では、日本の識字率とは申しますと、数百年に亘って世界一を誇ります。

幕末期 (1854~61 年頃) の江戸の識字率は、武士階級は、ほぼ 100%読み書きができていました。町民ら庶民層でも、男子で 79%、女子では 21%読め、農村の僻地でも 20%は読めたと言う推定値が残されており、当時、世界の中でも群を抜いていた。江戸に限定すれば、70~80%、さらに江戸の中心部に限定すれ

ば約 90%が読み書きができていたと言います。

また、嘉永年間（1850 年頃）の江戸の就学率は 70%～86%で、裏長屋に住む子供でも手習いに行かない子供は男女ともほとんどいなかったと言います。

そして、日本橋、赤坂、本郷などの地域では、男子より女子の修学数の方が多かったという記録もあります。

また、多くの外国人が、日本人の識字率の高さに驚愕し記録を残しております。

中でも、嘉永 3 年（1853）に黒船を率いてやって来たペリー提督は、日記（日本遠征記）に日本人は、「読み書きが普及していて、見聞を得ることに熱心である」記しています。

その頃（18 世紀）のヨーロッパの識字率はイギリス、ロンドンで 30%、パリ 10%です。但し、日本と違ってヨーロッパでは、エリート教育は進んでいましたが、庶民教育はほとんど関心が無く、庶民に知恵をも持たせないようにワザと教えなかった。とも言われております。

国際ロータリーで、識字率向上は、1986 年以來の強調事項で、当時の W キンロス RI 会長は、「地域の生活水準の向上は識字率の向上と深い関係にある」呼びかけられました。その後、1997 年 7 月の会合で理事会は毎年 7 月を識字率向上月間と定めましたが、2005 年 7 月の理事会決定で 2006～07 年度より 7 月から 3 月に移行し、現在に至っております。

今月の月間を機会に私たちロータリアンは識字の問題を再認識し、また、識字率向上に関する認識を高め、当クラブでも、独自のプログラムを開発したり、世界的にも非識字を撲滅しようとする観点からして、認識を向上させる絶好のチャンスかも知れません。

それでは、本日の夜間例会もロータリーライフを楽しんでいただきます様祈念し会長の時間といたします。 有難う御座います。